

平成27年度事務事業評価シート						取組みコード	13242
区分	事務事業		担当課	道路課		作成日	平成27年5月15日
事業名	道路維持補修経費		開始年度	不明	予算科目	7.2.2.1.1	

1 事業の概要

総合計画での位置づけ			
部	第1部 自然と調和した快適なまちづくり	章	第3章 総合的な交通体系の整備
節	第2節 町道の整備	基本施策	4 維持・管理の徹底
取組みの基本方向 (2)道路パトロール体制の強化による効率的な道路の維持管理をはかります。			
根拠法令等	道路法		
目的 (誰・何を対象に、何のために)	道路管理者である町は、道路を常時良好な状態に保ち、一般交通に支障を及ぼさないよう維持し、修繕を行う。		
内容・方法 (何を行っているのか)	道路の状態を確認するため定期的なパトロールを実施し、不具合箇所の補修や清掃、街路樹の剪定などを行うほか、法面や道路付属物、舗装等の道路ストックについて点検を行う。また、協同事業である「まち美化アダプト事業」により、地域住民の道路への愛着心や美化意識の高揚を図る。		

2 指標(事業の成果・活動内容等を数字で表します)

本事業が属する総合計画の節の成果指標		指標名	平成21年度	平成28年度				
		『町道の整備』について「満足」と感じる住民の割合	29.6%	40.0%				
		町道の改良率	56.9%	60.0%				
(A)総合計画の節の目標を達成するため本事業に求められる成果		道路事業に対する行政区からの要望件数の減少						
(A)の成果をあげられているか測るための指標(成果指標)	増減	指標の説明	項目	基準年度 (平成24年度)	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
行政区からの土木要望箇所の件数	減	道路に不満がある箇所について要望していることから、要望件数の減少が満足度に繋がる。	計画値		43.0	43.0	43.0	
			実績値	43.0	39.0	40.0	37.0	
			達成度※自動計算		110.3	107.5	116.2	
(B)成果指標の目標を達成するため本事業において町が行う活動		町道の未整備箇所を改良することや、未舗装箇所の舗装を行い町民生活の利便の向上を図る。						
(B)の活動状況を測るための指標(活動指標)	増減	指標の説明	項目		平成25年度	平成26年度	平成27年度	
町道の改良率	増	実道路延長と拡張された道路延長を比較し、客観的に道路の完成度を数値化し、満足度を測る。	計画値		58.0	58.0	59.0	
			実績値		57.9	58.1		
			達成度※自動計算		99.8	100.2	0.0	

※ 増減欄は、指標の値について、増加が望ましい場合に「増」、減少が望ましい場合に「減」を記入する。

3 事業費の推移と財源内訳

3 事業費の推移と財源内訳				(E) 平均人件費(円/年)	8,300,000
年 度		基準年度(決算) (平成24年度)	平成25年度(決算)	平成26年度(決算見込)	平成27年度(予算)
(A) 事業費(円)		20,312,619	20,118,545	22,392,997	29,685,000
(B) 概算職員数(人)		3.000	3.000	3.000	3.000
(C) = (B) × (E) 人件費(円) ※自動計算		24,900,000	24,900,000	24,900,000	24,900,000
(D) = (A) + (C) 総事業費(円) ※自動計算		45,212,619	45,018,545	47,292,997	54,585,000
単位当たりコスト※自動計算		1,051,456.3	1,154,321.7	1,182,324.9	1,475,270.3
財源内訳 (円)	特定財源	国庫支出金			
		県支出金			
		地方債			
		その他			
	一般財源※自動計算		45,212,619	45,018,545	47,292,997

4 事業の項目別評価(分析)

項 目	判定基準	判定 ※一部自動判定	評価 ※自動判定
妥当性 (公費を投入して実施することが妥当な事業か)	法令等で義務付けられた事業である	○	B
	民間サービスで同様の事業は実施されていない、市場原理に委ねることができない	○	
	国や県において同類種の事業が実施されていない	○	
	事業開始時から事業目的や町民のニーズの変化がない		
	事業・サービスの提供時間帯及び場所は公平に提供されている		
	受益に応じた負担は適正である		
	事業の実施による効果が不特定多数の人に広く及ぶ性質である	○	
	町民の日常生活に必要不可欠な事業である	○	
	上記のいずれにも当てはまらない		
有効性 (基準年と比較して成果が上がっているか)	成果指標について平成26年度の目標を達成している	○	A
	基準年度と比較して成果が向上している	○	
効率性 (なるべく費用をかけずに成果を上げているか)	基準年度と比較して費用の縮減ができている (費用の縮減率が成果の向上率以上か)	費用増≦成果アップ	B
有用性 (施策の成果指標の目標達成に貢献しているか)	総合計画の節の目標達成のための本事業の効果	直接的	A
	総合計画の節内での本事業の優先順位	高い	
総合評価 ※自動判定		良好に実施できている	

5 特記事項

6 自己評価(担当課)

評価結果	☐ 現状維持	☒ 拡 充	☐ 改 善	☐ 縮 小	☐ 再 構 築	☐ 廃 止
理由	内陸工業団地内街路樹などの剪定サイクルを適正に行うため。					
今後の方向性	道路施設点検を実施し、適正な補修及び修繕に努める。また、既存街路樹の伐採等を行い、植栽本数の見直しを行う。					

7 1次評価(庁内行政評価委員会)

評価結果	☐ 現状維持	☐ 拡充	☒ 改善	☐ 縮小	☐ 再構築	☐ 廃止
今後の方向性に係る意見等	所管課の方向性のとおりであるが、事業の実施方式の見直しに当たるため、改善とする。					

8 2次評価(外部評価:行政改革推進委員会)

評価結果	☐ 現状維持	☐ 拡充	☐ 改善	☐ 縮小	☐ 再構築	☐ 廃止
今後の方向性に係る意見等						

9 2次評価(実施のない場合は1次評価)を踏まえた対応案(担当課)

街路樹について、適正な維持管理のために、平成28年度から計画的に伐採等を行い、植栽本数の見直しを図る。

10 町の最終方針(行政改革推進本部会議)

評価結果	☐ 現状維持	☐ 拡 充	☒ 改 善	☐ 縮 小	☐ 再 構 築	☐ 廃 止
理由・改善方針	所管課の方向性のとおり、平成28年度から街路樹の伐採を進め、適正な維持管理を図る。					